

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です！

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重カ

NO.94



糸島市岩本

いた かずよし

井田 和良さん(22)



乗用管理機です。広大な圃場を消毒するのに必要不可欠な農機です。また、田植え機1台、コンバイン1台の他、リフト1台を保有されており、日々作業をこなされています。



135馬力のトラクターです。他にも85馬力、65馬力、60馬力、52馬力の合計5台を保有されています。

今回は、就農して2年目。糸島市岩本で米・麦の生産に取り組む井田和良さんを紹介します。

■農業経営の内容を教えてください

米・麦を主体とした家族経営の法人化を行い、米は主食用米の「ヒノヒカリ」や「にこまる」を約20畝、飼料用米の「ツクシホマレ」を約5畝の他、米粉用やモチ米などを約3畝生産しています。

麦は大麦の「ホウシュン」を約15畝、小麦は約15畝で「チクゴイズミ」、「チクシW2号」、「ミナミノカオリ」を生産しています。

繁忙期に人を雇う事もありますが、大半は私と父で農業を行います。

◆就農のきっかけは？

子どもの頃から後を継ぐ気持ちでいました。

祖父や父からも後継者として期待されていましたし、農作業の手伝いやトラクターに乗せてもらうのが好きでした。

高校卒業後は福岡県立農業大学校に進み、土地利用型農業を学びました。

大学で先輩たちと話すうち、自分の家の経営規模が大きいことが分かりました。

農作業を手伝っていた頃は感じませんでしたが、家に戻って就農した時「こんなに広がったのか！」と改めて規模の大きさを実感しました。

◆自分なりに工夫されていることは？

1年目は父に教わりながら作業を行いました。

作業内容は日記に記入していたので、2年目から

は次に何をするのか分かるようになりました。

最近では1人で作業する事が多くなり、作物の状態を観察して考えながら行っています。

施肥の量などは、まだ判断が難しいので、父や青年部の先輩にたずねたり、さらに部会の講習等でモデル圃場と葉色を見比べたりして決めます。

自分で考えて作業をするようになったら、だんだん面白く感じるようになりました。

◆就農してからの苦労は？

小・中学校の頃は野球、高校生になってからはサッカーをしていましたので、体力には自信がありました。

しかし、収穫と次の作物の準備が重なる繁忙期は大変です。

準備は手を抜くと次の作業に影響が出てしまいます。限られた時間内に丁寧に仕上げる必要があるため、作業中は農機に乗りっぱなしになります。

また、天候にも左右されますので、予定通りに進まない時は焦りが出て精神的にも疲れます。

◆将来の抱負は？

圃場が隣接するように集約して、作業効率を上げ、今後も家族経営で可能な規模まで拡大したいです。

最近、作業の効率化と省力化のため、農機の直進をアシストしてくれる装置を導入しました。

将来的には全面的な自動運転の農機導入を父も私も考えています。